

さらにさらに、変わった点はいくつもあります。ここでは、展示を観るのが一層楽しくなる仕掛けをご案内します。

けんぱくん あなたのスマホがガイドに～展示観覧サポートシステム「けんぱくん」

2025年4月から、展示観覧サポートシステム「けんぱくん」が公開開始となります。
三の丸からプロジェクトの一環として、皆様に常設展を楽しんでいただけるコンテンツがあらたに完成しました。
特殊なアプリのダウンロードなどは必要なく、館内の専用Wi-Fiに接続していただき、展示室内各所にあるQRコードを読み取っていただくだけで、ふだんご利用のブラウザから簡単にご覧になれます。
お手持ちのスマートフォン・タブレットを利用して、博物館の展示室内限定のさまざまなコンテンツをお楽しみいただけます。

例えば・・・

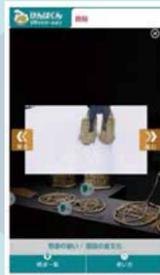
① 個人端末の画面から、各展示室のVR空間上で館内を歩いている感覚で操作できる



② 展示品につけられた目印のアイコンから、解説の文字情報・音声ガイド・高精細3D画像・解説動画などを視聴可能
*日本語のほか、英語・中国語簡体字・中国語繁体字の全4言語に対応



③ 展示されている道具(石包丁や雪踏み履)の使い方や、三の丸と鶴ヶ城の位置関係が一目で分かるドローンの空撮映像など、「けんぱくん」ならではのコンテンツも実装



海外からお越しの方も含め、初めて福島県立博物館においでの方も、「常設展は何回も見た」というおなじみのお客さまも、どなたさまにもじっくり楽しめるコンテンツとなっています。どうぞご利用ください。

さわれるシリーズ ～さわって観よう！～

博物館の資料はとても貴重なものですし、古くて壊れやすいものも沢山あります。そのため、普通は展示されている資料にさわすることはできません。ですが、さわることによって、観るだけではわからない気づきや発見が生まれることもあります。ここでは、さわることによって展示や資料への理解をより深めるためのツールをご紹介します。

①さわれる展示ボックス

「なんだべや」に常設されているのが、「さわれる展示ボックス」です。手前に空いた穴から手を入れて、中にある資料が何か考えていただく仕掛けです。正面のモニターでは、フタバスズキリュウのズッキーが触り方のヒントを出してくれます。小さなお子さんでもクイズ感覚で楽しめます。



②さわって観ようてんじカード

常設展示室内の9つの資料について、点字と触図であらわしたカードです。カードには点字と墨字(印刷された、書かれた文字)が書かれていて、目の不自由な方もカードをさわりながら資料について知ることができます。目の見える方とそうでない方が、同じ資料を「みる」ことができるようにサポートするためのものです。墨字はひらがなのので、大人から子どもまで、視覚に障害のある方もそうでない方も、どなたでも利用できるカードです。ご利用の際は、常設展入口カウンターでお申し出ください。



③ミニアームストロング砲

常設展総合展示室に展示されている六封度アームストロング砲です。約10分の1サイズのミニチュアと、砲身の一部を原寸大で切り取ったものの2種類があります。目の不自由な方も全体像を理解することができます。また、砲身は内部に刻まれた螺旋状の溝を忠実に再現しました。砲撃の威力を高めるための仕組みが、さわることによりわかりやすくなりました。ご利用の際は1ヶ月前までにお申し込みください。



さわれるシリーズは、今後も増えていく予定です。どうぞご期待ください。

三施設共通観覧券 けんぱくとお城を観るなら、共通観覧券がお得

県立博物館常設展と鶴ヶ城天守閣および茶室麒麟をお得な割引料金で観覧できる共通観覧券が発売中です。共通観覧券はそれぞれの施設のチケット販売窓口にて販売しております。けんぱくとお城、両方をお楽しみの際は、ぜひご利用ください。なお、共通観覧券で県立博物館の企画展も割引料金でさらに大変お得にご覧いただけます。



2025年4月より常設展示観覧料が改訂されました。

【観覧料】

■常設展観覧料 一般・大学生400円(20名以上の団体は320円)

こどもの日5/5(月・祝)、県民の日8/21(木)、敬老の日9/15(月・祝)、文化の日11/3(月・祝)は、すべての方の常設展観覧料が無料です。

■春の企画展「ボーダーなき世界をー福島県立博物館とWell-beingー」

一般・大学生1,000円(800円)、()内は20名以上の団体料金。

*高校生以下は常設展・企画展ともに無料です。

■年間パスポート 2,400円 購入日から1年間、当館主催の企画展や常設展が何度でもご覧いただけます。

■三施設共通券(当館常設展・鶴ヶ城・茶室麒麟) 一般・大学生730円



福島県立博物館
Fukushima Museum



開館時間9:30~17:00(チケットの販売は16:30まで)
お問い合わせ TEL0242-28-6000 FAX0242-28-5986
〒965-0807 会津若松市城東町1-25
HP <https://general-museum.fcs.ed.jp> E-mail general-museum@fcs.ed.jp

なじよな特別号 2025年3月31日発行 発行/福島県立博物館



■JR会津若松駅から約3km
・タクシーで約10分
・まちなか周遊バス「ハイカラさん」で約20分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)
・まちなか周遊バス「あかべえ」で約30分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)



車椅子使用者用駐車場

博物館西側「鶴ヶ城三の丸口」バス停そば:2台
一般駐車場内博物館入り口側:3台



子育て応援駐車場

一般駐車場内博物館入り口側:3台
※妊娠中の方や未就学児のお子さんを対象とした駐車場です。
※ご不明の点はお問い合わせください。

なじよな

2025
スペシャル

特別号

福島県立博物館

なじよな

2025
スペシャル

特別号

特別号

2025
スペシャル

特別号

福島県立博物館

特別号

2025
スペシャル

特別号

精密な模型に映えるプロジェクションマッピング

2024年4月に新登場した三の丸アベニューの「あいづスタジアム」。
戊辰戦争前の若松城下をイメージした模型です。町全体のつくり注目して頂くため、東西約5km、南北約3.5kmの範囲に広がっていた城下を、1/700スケールで制作しました。
定時に投影されるプロジェクションマッピングでは、若松の成り立ちと戊辰戦争の籠城戦について解説しています。戊辰戦争によって失われた城下の町なみを「あいづスタジアム」でぜひご覧ください。

ここがポイント！

「あいづスタジアム」は、幕末に活躍した若松の町絵師 大須賀清光が描いた「若松城下絵図屏風」を基本の資料としながら、他の絵図や古文書も参照して細部まで作り込みました。模型は周囲のどの方向からでもご覧いただけます。視点を変えながら城下町をじっくりと観察してみてください。
視線を下げて眺めると、町に入り込んだような感覚がして楽しいですよ。

インフォメーションテーブルのタッチモニターでは、鶴ヶ城や町の見どころをご紹介します。プロジェクションマッピングとあわせてご利用いただくと、城下をより深く知ることができそうですよ。
会津若松の歴史散歩を楽しむためのツールとして、「あいづスタジアム」をぜひご利用ください！



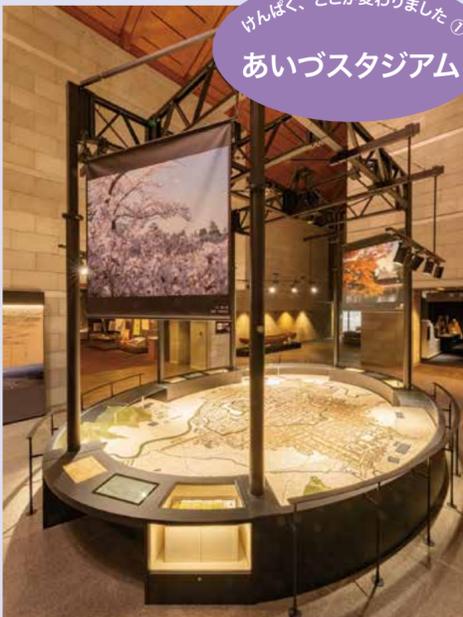
鶴ヶ城も1/700スケールで再現されています。

映像と音声でよりわかりやすく！

プロジェクションマッピングを利用した映像は、地形や町づくりの特徴をご紹介します「若松城下の成り立ち」(約9分)と、一か月におよぶ会津藩と新政府軍の戦いをご紹介します「若松籠城戦」(約11分)の2つのコンテンツをご用意しています。学校の授業や教育旅行にもおすすめです。一方、インフォメーションテーブルのタッチモニターでは、鶴ヶ城や町の見どころ、人々の信仰などを11個のコンテンツでご紹介しています。こちらを読んでから鶴ヶ城や町へお出掛けすると、町歩きがさらに楽しくなりますよ。

模型と絵図を比べてみよう！

「若松城下絵図屏風」は、町絵師 大須賀清光の代表作のひとつ。飛行機やドローンが無い時代に、まるで空から見たように描いたかのような緻密さに驚かされます。清光の絵図は写真パネルで展示していますので、模型と見比べてみてください。



① けんぱく、ここが変わりました
あいづスタジアム



音声での解説に合わせて、プロジェクションマッピングが投影されます。



タッチモニターを使って、興味をもたれたコンテンツからご覧ください。



お天気を気にせず遊び、学ぼう！

博物館の開館以来、「体験学習室」として親しまれてきたお部屋がリニューアルし、雪国ものづくり広場「なんだべや」として生まれ変わりました。
ものづくり体験などさまざまなイベントを開催していますが、普段からお子さんが遊び・学べる場所としてご利用いただけます。絵本を読んだり、少し昔のおもちゃで遊んだり…。新しくなった「なんだべや」をぜひご利用ください。

ここがポイント！

リニューアルにより木のぬくもりや肌触りが感じられるようなスペースになりました。また、会津木綿、会津本郷焼といった、会津のものづくりのエッセンスが散りばめられています。見て、さわって、使って楽しんでいただけます。

会津産の材料にこだわったベビーケアルームも設置いたしました。会津産の木材を使用し、「板倉造り」という工法で製作しました。天井にはヤマブドウやまたたびで作られたオーナメントが飾られて、お子さんの目にも楽しい仕掛けになっています。



会津の材料にこだわったベビーケアルームです。天井にはヤマブドウやまたたびで作られたオーナメントが飾られて、お子さんを喜ばせます。



会津木綿を配した棚です。木のおもちゃや絵本が収められています。見ても楽しい棚になりました。自分好みの絵柄を探してみてください。



会津本郷焼で制作した洗面台です。郷土食「しんの山椒付け」を漬けるための「しん鉢」をイメージしています。本物のしん鉢は分野別展示室(民俗)に展示されているので、ぜひ見比べてみてください。

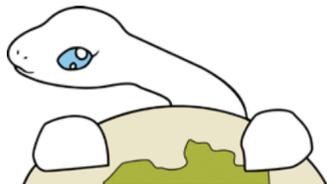


子ども大人も楽しめるイベントがたくさんあります。詳しくはホームページやなじよでお知らせしています。

② けんぱく、ここが変わりました
雪国ものづくり広場
「なんだべや」

皆さんが最近けんぱく(福島県立博物館)に来られたのはいつでしょう？毎年、あるいは1年に何度もご来館いただいている方もいらっしゃると思います。でも、「子どものころに学校行事で行ったけど、それ以来行っていないなあ」という方もいらっしゃるのでは？

実はここ数年で、けんぱくもいろいろなところが変わっているんです。というわけで、今回の特別号では、ここ数年で「けんぱく、ここが変わりました」というところをご紹介！これを見れば、久しぶりに新しくなったけんぱくに行ってみてもいいかも、と思っただけなのではないでしょうか。皆さんのご来館をお待ちしております。



巨大スクリーンに雪が降る！ サイノカミが燃える！

2023年4月にリニューアルオープンした分野別展示室(民俗)。展示室に一歩足を踏み入れると、そこには雪国が広がります。約20mの大型スクリーンに映し出される奥会津の自然やそこに生きる人々の営みが、みる人を雪国へと誘います。
厳しくも豊かな奥会津を生き抜くための知恵が詰まった資料の数々を、映像や模型を組み込んだ新しい展示空間の中でご覧ください。

ここがポイント！

大型スクリーンに映し出されるのは、アーティストの松尾高弘(LUSENT)さんによる空間映像作品「Snow and Light」。雪国・会津の暮らしとものづくりをテーマに、奥会津の雪景色や臨場感あふれる祭りの映像など、様々な情景や語りが浮かび上がります。雪国の空気感まで感じられるように制作されています。

会津の雪深さを感じます

原寸大の民家模型では、住人が屋根に上って降り積もった雪を落としています。その横には、福島県内の記録的な積雪量を示したスケールを設置しています。県内で1番の積雪は、2013年に只見で観測された341cmです。
屋根の高さと比較してみてください。
なお、2025年2月の大雪で、会津若松市と金山町の記録が塗り替えられました！
リニューアルしたばかりなのに…。
みなさん、近年は雪が少なくなったと口を揃えますが、やはり会津の冬は油断がなりません。



昔ながらの会津の郷土料理を知っていただくためのレプリカが並びます。今日は何を食べようか、そんなことを考えながらご覧いただくのもおすすめです。



身近な植物を利用して作られたザルやカゴ。こうした手仕事の文化は今も伝えられています。展示室でご覧いただいた手仕事の品を購入するため、奥会津を周遊するのも楽しみの一つです。

③ けんぱく、ここが変わりました
分野別展示室(民俗)

戦後の福島県を、いくつかのトピックでご紹介

戦後から高度経済成長の時代を経て、福島県がどのように変わってきたのかをいくつかのトピックを通じて振り返っていきます。エネルギーの移り変わり、一時代を築いたタバコ産業、全国的にも有名なくだもの栽培、磐梯山の歴史と観光、そして「震災遺産」。
社会の仕組みが変わっていく様子や、経済や科学の発展が福島県に与えた影響などを知るきっかけになればと考えています。

ここがポイント！

東北地方太平洋沖地震に起因する東日本大震災について伝える資料、「震災遺産」が常設展示室に加わります。けんぱくでは、これまでも企画展や特集展で「震災遺産を考える」をテーマに展示を行ってきました。しかし2026年3月には震災から15年を迎える現在、小学生や中学生のほとんどにとっては、震災はもはや歴史上のできごととなっています。こうした展示から、当時の福島県の状況を確認し、自分事として将来起こりえる災害について考えてもらいたいと考えています。



「食」を通して雪国・会津のものづくりに触れる

ここは「食」を通して雪国・会津のものづくりに触れていただく食堂「つきない」です。会津には歴史と自然の中で育まれたものづくりがあります。それらに体をゆだねて、手で触れて、唇で感じてみてください。



会津木綿を使ったオリジナルグッズも販売中。店内で使用しているうつわやお皿を購入することもできます。博物館ならではの食体験をお待ちください。



おすすめは「つきない会津のめくみ車駐のカツ南蛮定食」(1,500円)。車駐と侮ることなかれ。結構なボリュームがありますよ。味もさることながら、制作工程がわかる漆器や会津塗の技法を多数施したお箸で召し上がる体験もご馳走です。

ここがポイント！

「つきない」のコンセプトは、「会津の本物が体験できる場」「会津のものづくりの本物、経験、情報に出会える場」であること。店内のテーブルや内装には、会津塗がふんだんに用いられています。
また皆さんが手に取り口にすることも、会津塗の箸に会津本郷焼の器。会津ならではの空間で、器で、会津の尽きない魅力をお届けします。



④ けんぱく、ここが変わりました
雪国ものづくり食堂
「つきない」

